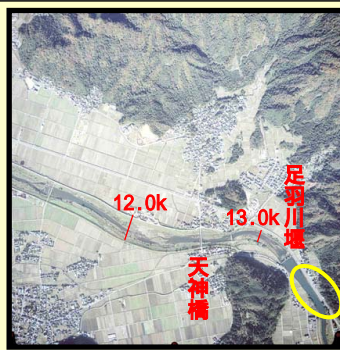
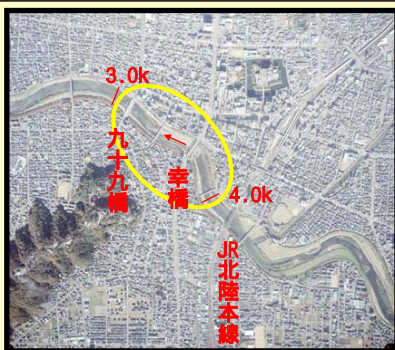
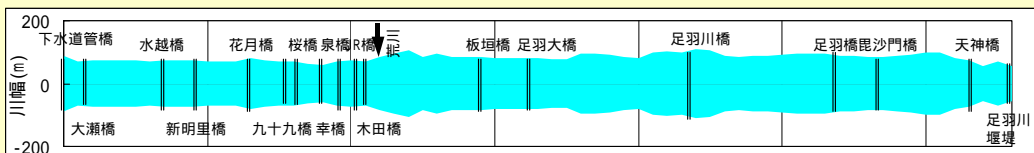
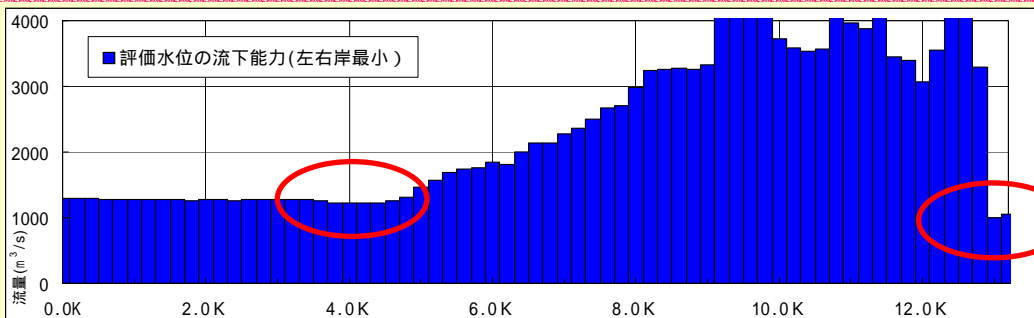


2. 現状と課題

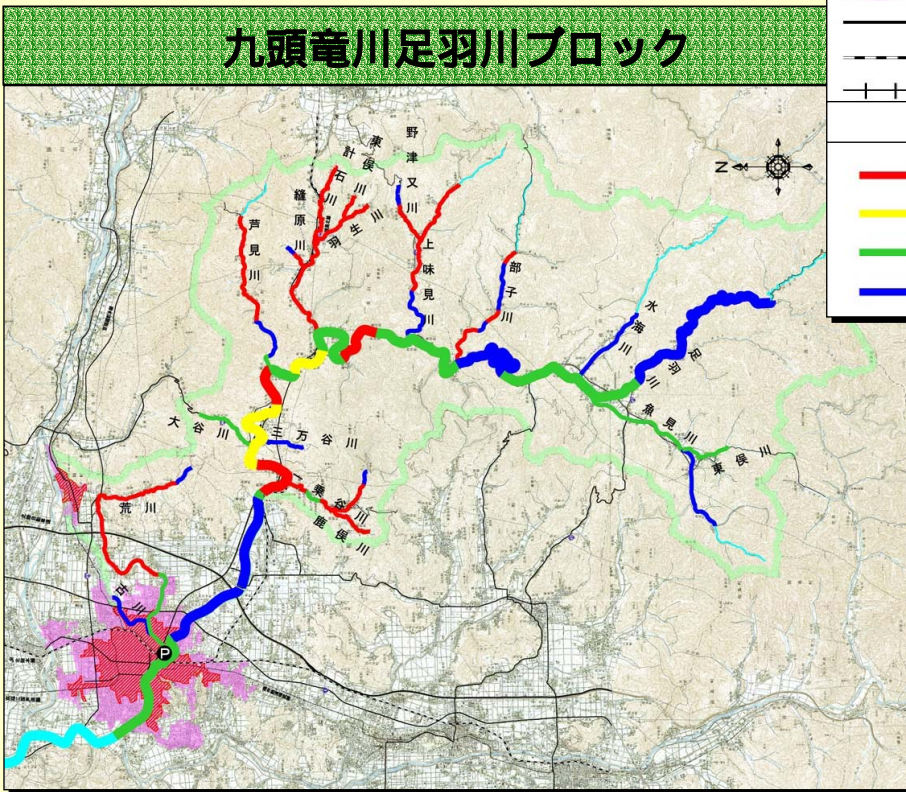
2.1 治水の現状

足羽川の現況流下能力 (0.0 ~ 13.4 k)



支川群の治水安全度

九頭竜川足羽川ブロック



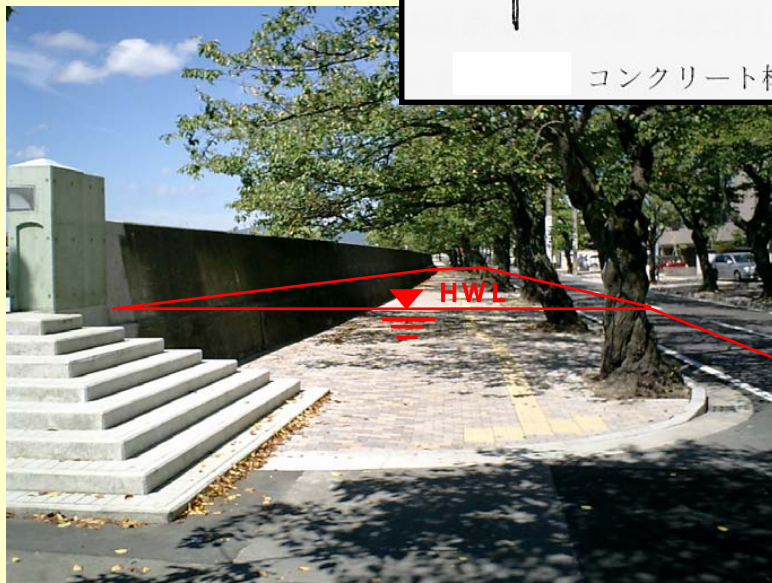
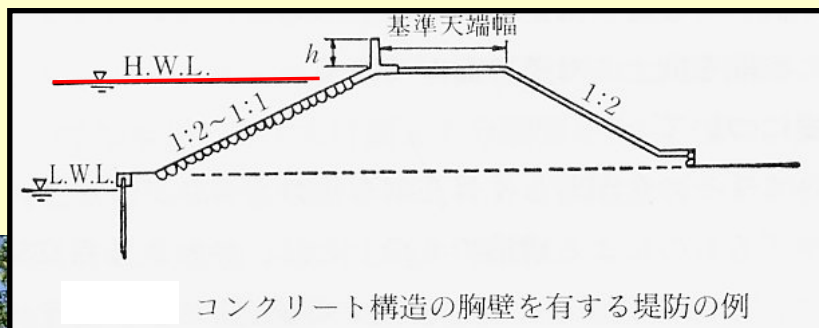
凡 例	
	: 人口集中地区 (S45)
	: 人口集中地区 (H12)
	: 国道・主要地方道路
	: J R
	: 私鉄
治水安全度の凡例	
	: 5年未満
	: 5年以上 10年未満
	: 10年以上 30年未満
	: 30年以上

足羽川の特殊堤



足羽川の特殊堤(福井市中央)

足羽川の特殊堤



足羽川の特殊堤
(福井市照手)

足羽川の桜並木



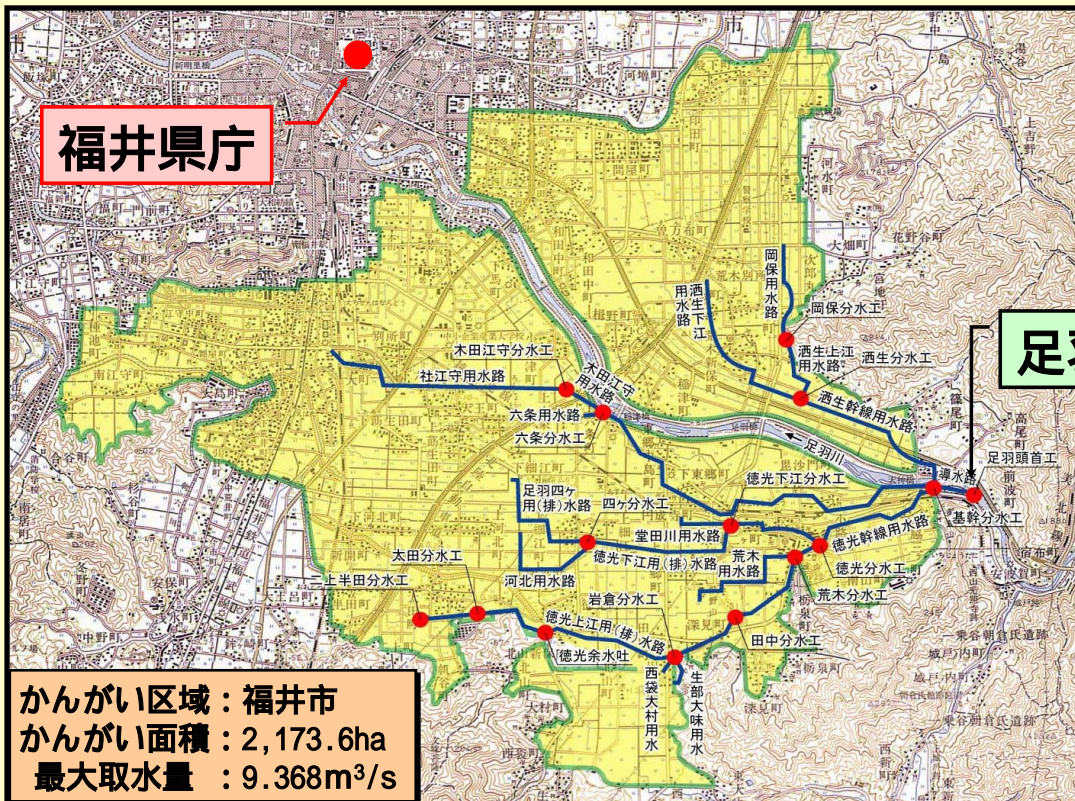
足羽川の桜並木(福井市つくも)

2.2 利水の現状

かんがい用水の利用

福井県庁

足羽川堰

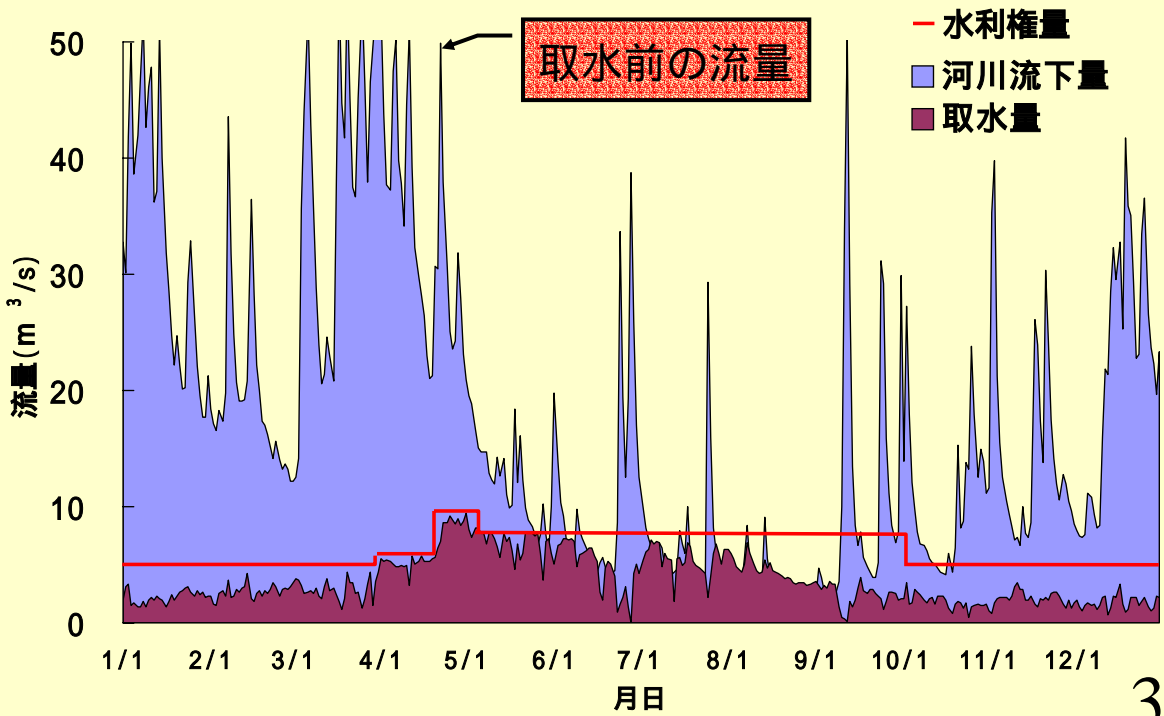


足羽川堰



足羽川地点における取水量と河川流下量

< 足羽川堰 平成12年 >



過去に発生した濁水



毘沙門橋から上流を望む（8月4日）



天神橋下流（8月29日）

平成6年8月18日
(中日新聞)

足羽川干上がる

農業用水確保でせき止め

足羽川の水が干上がり、川底が露出している。川沿いの農家は、農業用水の確保のためにせき止めを行っている。川の水が干上がり、川底が露出している。川沿いの農家は、農業用水の確保のためにせき止めを行っている。川の水が干上がり、川底が露出している。川沿いの農家は、農業用水の確保のためにせき止めを行っている。



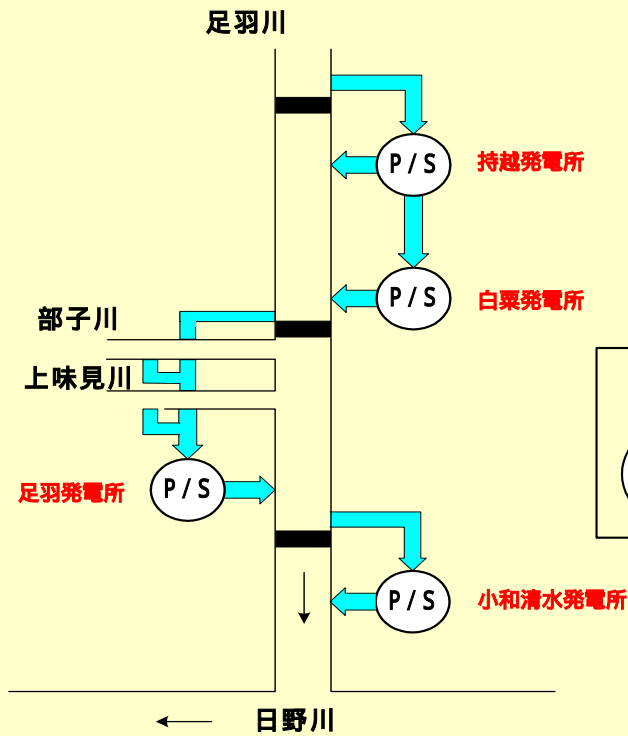
濁水により川底に草が生えた

板垣橋上流の足羽川（8月5日）

頻発する足羽川堰の番水

年	番水	期 間	番水の状況
平成 4年			
平成 5年			
平成 6年		7月18日～8月23日 (37日間)	3幹線で3日1日送水停止
平成 7年			
平成 8年		7月22日～8月15日 (25日間)	3幹線で3日1日送水停止
平成 9年			
平成10年			近年では約3年に1回の割合で番水が発生しています。
平成11年			
平成12年		7月下旬からの予定が 降雨により中止	
平成13年		7月30日～8月20日 (21日間)	3幹線で3日1日送水停止

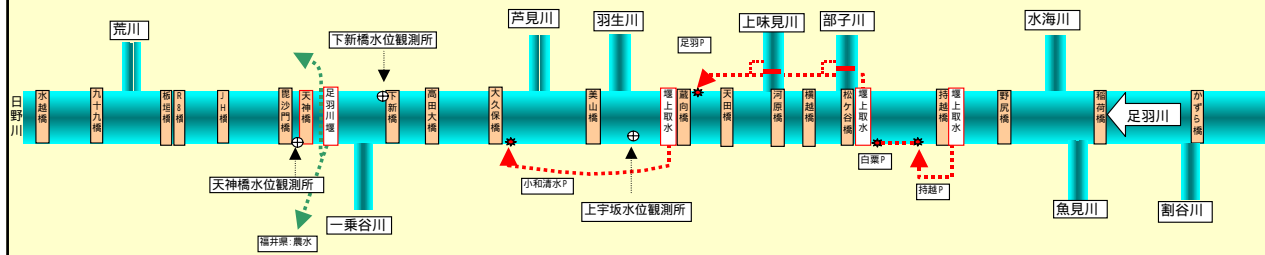
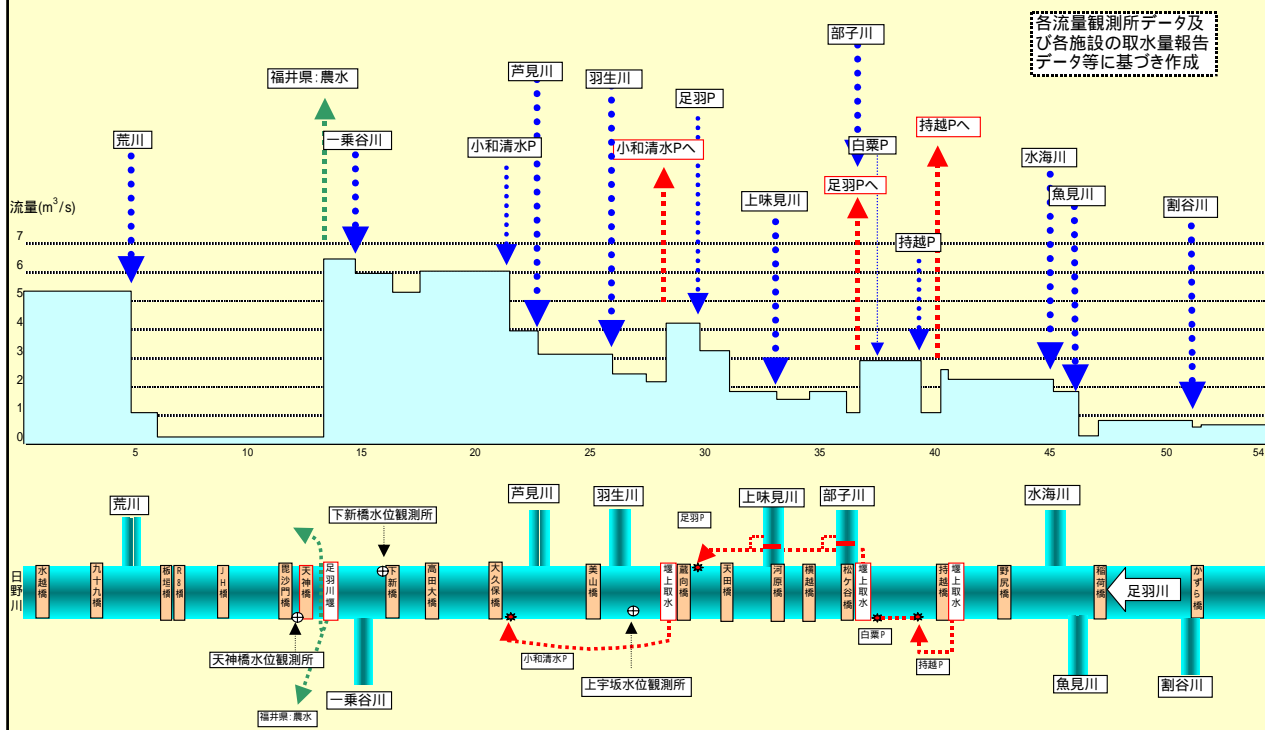
発電用水の利用



凡例
P/S : 発電所

足羽川の流量縦断面図

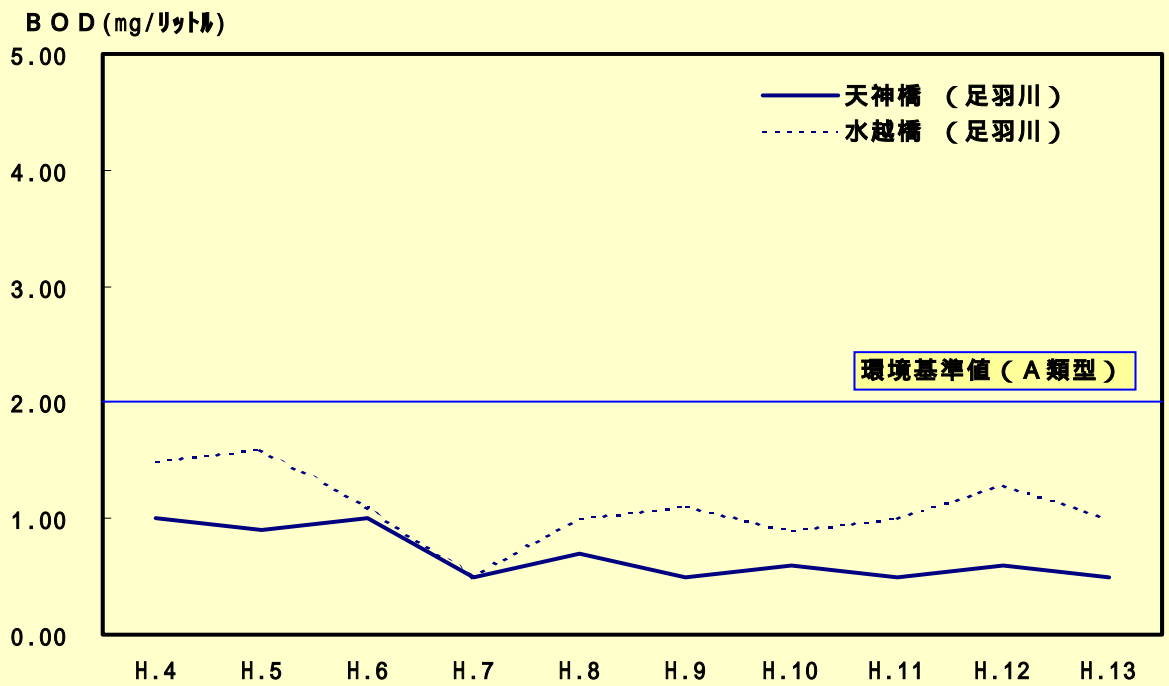
(平成13年8月8日)



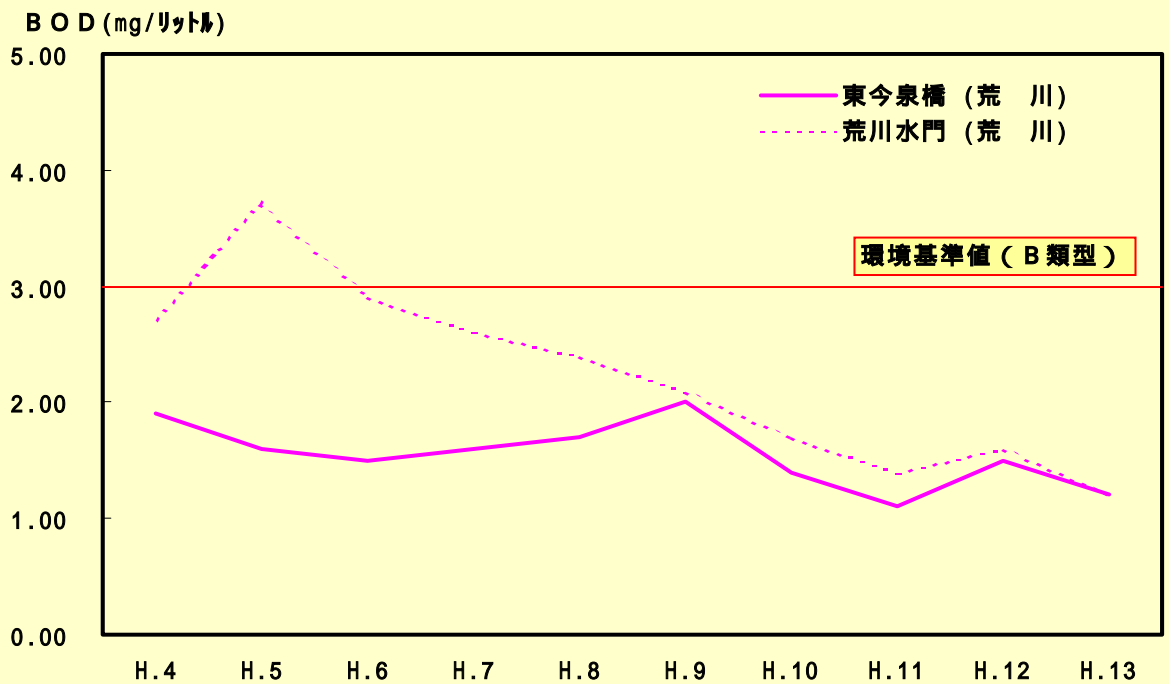
P: 発電所の略 ⊕: 水位観測所 * : 発電所位置

2.3 河川環境の現状

水質



水質



河川空間の利用

足羽川の緑地公園



足羽川の親水階段護岸

河川環境

種 別	生息・生育する主な種
植 物	オオイタドリ、ツルヨシ、タチヤナギ ハナムグラ、ムラサキ 等 1,246種
魚 類	アユ、コイ、ギンブナ、ウグイ アジメドジョウ、アカザ 等 46種
鳥 類	カモ、アオサギ、ヤマドリ チュウサギ、トモエガモ 等 140種

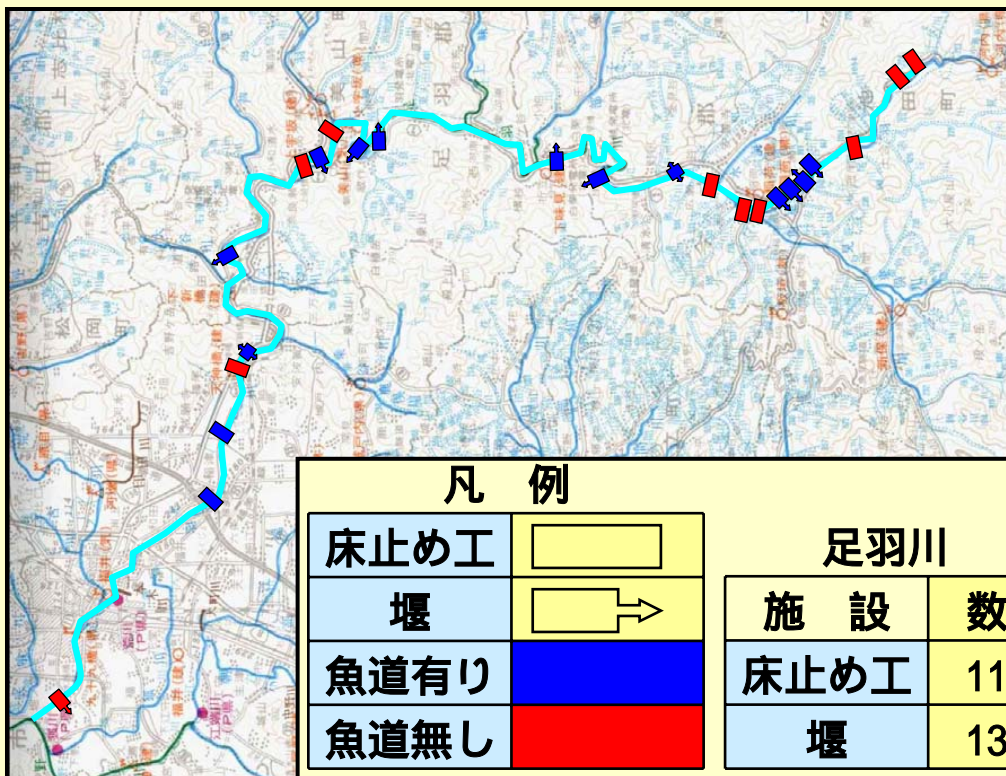
赤字：貴重な種

河川環境



足羽川の河道内樹木

足羽川の河川横断工作物



凡 例

床止め工	
堰	
魚道有り	
魚道無し	

足羽川

施 設	数
床止め工	11
堰	13

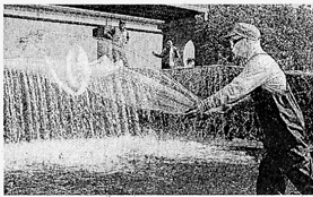
河川横断工作物



足羽川の魚道（福井市稲津町）

河川横断工作物

稚アユのそ上応援



福井漁協 足羽川漁協

えん堤で『くみ上げ』

百匹(約十五)を捕獲、えん堤に移し替えて上流に放つ。今後は、解禁日まで作業を続け、合計十を捕獲、放流する計画だ。同漁協によると、足羽川では、天然そ上(千)のほか、琵琶湖産の稚アユなど計八千二百を上流全域で放流する計画という。

投網を打って稚アユを捕獲する漁協の役員ら(福井市の足羽川で)

アユ釣りシーズンを前に、足羽川漁業協同組合は五日から、福井市稲津町の足羽川のえん堤で、天然そ上の稚アユを捕獲して上流部に放つ『くみ上げ』作業を始めた。六月十四日のアユ釣りの解禁日まで行われる。稲津町にあるえん堤の高さは約一・五メートル。海からそ上してきた稚アユは、この堰(せき)を上せずに、立ち往生してしまふ。稚アユのそ上を助ける作業を『くみ上げ』と呼び、同漁協が毎年実施している。今シーズンは、水温が上がらなかつたため、作業の開始は例年より約十日遅くなったという。この日は、同組合の役員ら十二人が約一時間、作業にあたった。えん堤下で投網を打ち、稚アユ約千五百匹(約十五)を捕獲、えん堤に移し替えて上流に放つ。今後は、解禁日まで作業を続け、合計十を捕獲、放流する計画だ。同漁協によると、足羽川では、天然そ上(千)のほか、琵琶湖産の稚アユなど計八千二百を上流全域で放流する計画という。

平成15年5月7日(福井新聞、県民福井)

そ上アユ 関所で救出



そ上アユの救出作業の様子(福井市稲津町)

足羽川漁協は五日、足羽川を遡り、稲津橋下に高さ一・五メートルのえん堤で、天然そ上の稚アユを捕獲し、上流に放つ『くみ上げ』作業を始めた。六月十四日のアユ釣りの解禁日まで行われる。稲津町にあるえん堤の高さは約一・五メートル。海からそ上してきた稚アユは、この堰(せき)を上せずに、立ち往生してしまふ。稚アユのそ上を助ける作業を『くみ上げ』と呼び、同漁協が毎年実施している。今シーズンは、水温が上がらなかつたため、作業の開始は例年より約十日遅くなったという。この日は、同組合の役員ら十二人が約一時間、作業にあたった。えん堤下で投網を打ち、稚アユ約千五百匹(約十五)を捕獲、えん堤に移し替えて上流に放つ。今後は、解禁日まで作業を続け、合計十を捕獲、放流する計画だ。同漁協によると、足羽川では、天然そ上(千)のほか、琵琶湖産の稚アユなど計八千二百を上流全域で放流する計画という。

今年、琵琶湖産の稚アユは、天然そ上(千)と合わせて、計八千二百を上流全域で放流する計画という。

2.4 治水・利水・河川環境の課題

治水上の課題のまとめ

- 足羽川の市街地区間は、洪水の疎通障害となっている橋梁や樹木、河道断面の不足により、流下能力が低い。
- 多くの支川で、治水安全度が1/30年確率に満たない。
- 家屋の浸水被害が発生した河川のうち、荒川、一乗谷川は対策が未完了である。
- 足羽川の市街地の一部区間の堤防は、特殊な構造であり、質的な改良が必要である。

利水上の課題のまとめ

- 農業用水が安定して取水できない。

河川環境上の課題のまとめ

- 河川からの取水により、時期によっては水枯れする区間があり、水棲生物等への影響が懸念される。
- 魚類の移動を妨げている恐れのある河川横断工
作物がある。